

## 第6回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和5年(2023年)9月4日(火)13時30分～

日野町役場 防災センター研修室

~~~~~

### ○子ども支援課長

皆さん、こんにちは。第6回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、設置要綱に従いまして佐々木委員長から進行をよろしく願いいたします。

~~~~~

### ○委員長

それでは、始めさせていただきたいと思います。

今日のテーマは、視察に行っておいてまいりまして、この中からもご参加いただいた方が何名かいらっしゃるのですけれども、その方々と一緒に報告をしていきまして、そのあと、秋になってきて次のワークショップをどういった内容で実施していくかという時期に入っておいてまいりますので、答申策定に向けていくつか要点整理をしたいと思っております。よろしく願いします。

~~~~~

### ○委員長

それでは、まずはじめに、「視察報告」からさせていただきます。

視察報告の前に皆様に知っておいていただきたいことがあります。視察場所を選定する時に、日野と状況が全く同じようなところを見てくるというのも1つの考え方なのかも知れないのですが、なかなか、これだけ市区町村がありましても全く同じというところは当然ありません。ですから、違うところの事例がどれだけ役に立つのかという話も前回議論があったと思います。大切なことは、条件は異なっても、学べることは多々あったなというのが、私も現地に行きましてもものすごく、いつも視察に行くたびに思うことですけれども、「百聞は一見に如かず」ということを改めて感じて帰ってきました。皆様もぜひ、参考になる点、学べる点はどんなところがあるのかなということでお聞きいただければと思います。よろしく願いします。

では、なぜこの4か所を選んだのかということをお話させていただきます。まず、「日野町の状況を踏まえた幼児教育専門家からの推薦」ということで、びわこ学院大学の先生から場所をご推薦いただきました。行政施策として、少子化や子育て環境ということに深く参考になるということで、「岡山県奈義町」と「新潟県出雲崎町」の2か所が選ばれました。

それから、「地域で幼保園の運営を引き継いだ事例」ということがあります。いろいろ

な選択肢を我々考えていく中で、いろいろな生き残り方があるだろうということで、これはネット検索して探してきました。「長野県飯田市千代地区」と「青森県十和田市休屋地区」の2か所を選んでおります。

まず、「行政施策としての事例」ですけれども、いずれのまちも「子育て推進」はもちろんです、「住宅施策」つまり移住して住める場所、そういったことがされています。それから、若干取り組んでいることが違うので、それぞれあげさせていただいております。詳しくは事務局から報告していただけるかと思えます。

奈義町と出雲崎市で一番大きく違うのは、奈義町は「就労の場の確保」ということで、お母さんが少しでも仕事ができる場所を町の中で確保しようとしているところがありますが、出雲崎市はすぐ近くに就労できる環境があるので、市の中で就労できなくても、すぐ近くで働いていただいて交流人口を増やすという点が異なっています。

それから、「地域で幼保園の運営を引き継いだ事例」でございます。両地区とも主に自治会が母体となって法人を立ち上げたり、そのまま町内会が幼保園を引き継いで運営している場所になります。後ほど詳しく説明させていただきます。

写真をご紹介しますと思います。

まず、出雲崎市については、子育てに力を入れていることもさることながら、「出雲崎市に来て子育てをしませんか」ということで、ラッピングバスを走らせたり、周知について力を入れているのが特徴的なところでした。皆さんが利用できる施設が出雲崎市の真ん中にありまして、ここが未就学児と親御さんのみならず、地域の子どもたちが帰りのバスを待つ場所でもあるので、待合所に使われている場所でした。

次に、青森県十和田市休屋地区については、遠いので私しか行けませんでした。十和田湖という湖があります。小学校の脇に小さな保育園があります。もともと社会福祉士法人が運営していたのですが、現在は町内会で運営する形で存続しています。園児数は、ここ数年は2名程度で推移しているのですけれど、十和田湖というのは観光船が走っているところなので、仕事をしている間に子どもを預ける場所がないと子育て層が来なくなるだろうということで、町内会で一念発起して運営しているところです。中をいろいろ見せていただきました。

次に長野県飯田市千代地区ですが、独居老人のお宅も含めて地域の全住民が1万円ずつ出資して、社会福祉法人を立ち上げられた場所です。給食には地元の方がつくったものがそのまま園児たちに供給されるということで、本当に地域一体でやっているという形です。

岡山県奈義町は、出生率が上がったというところなんです。行政施策ということで、中心部に施設がありまして、いろいろな住民の方がいろいろな形で参画するというので、町内にいらっしゃるフランスの方が料理教室を開いたり、図書館から本が借り出されたり、どういう背景でこういった施設・施策が生まれてきたのかというお話を伺いました。

詳細はまた後ほど説明いたします。

## ○委員長

では、早速ですけれども、この視察に何名か懇話会のメンバーが参加してくださいました。どんなところを学んだとか、非常に特徴的だったとか、その辺をまとめて、その結果、日野町に応用できるところはどんなところだろうというまとめのワークショップをしたのです。その報告を、今日いらっしゃっている方にさせていただこうと思います。皆さん、見えにくいので近くに集まっていただいて報告を受けていただきたいと思います。

## ○委員

私は長野県飯田市千代地区へ行かせてもらいました。本当に自然豊かな場所で、日野町の山奥の方の雰囲気とよく似ているなと感じて、人口などを踏まえると少し課題も違うけれども、日野町によく似た場所で、よく似た取り組みもできる可能性もあるなと思いつながら見ていました。

その中で、住民一人ひとりが自分のことのように意識づけされているからこそ民営化されたということもおっしゃっていました。先ほども委員長から報告がありましたが、独居老人、一人暮らしの人でも皆さん1万円ずつ出資して、それぞれが、この地区にはこの保育園が必要だということを地域みんながしっかりと意識をひとつにして取り組まれたという、最初のところがあつたと思います。そこで、地域の本気度といいますか、この村は私たちが守っていくのだということで、幼稚園だけではなくて老人ホームも同じような法人として運営されていたというのが、育つところから最期まで、私たちの地区は私たちが守ることが意識として持つておられたと感じました。

あと、よく言われている保育士のなり手の少なさ、辞めていってしまうという課題もあったのですが、この地区のこの保育園は、なりたいというか、辞めたくないと言われています。今は園児の人数が減って、申し訳ないが違うところへ行ってもらう。でも、児童が増えたら戻してほしいと言われぐらい、その保育園を愛しておられる保育士さんたちがたくさんおられるようです。創設の時から今まで辞められたのは1人だけということで、そのほかの人は全員ずっと今まで来られている。昨年度だったか、2人の方は異動していただいたけれども、その方たちももう1回この保育園に戻ってきたいというぐらい、この地区そして保育園を愛しておられるようです。

あともう1つ、栄養士さんが本当に素敵な方で、笑顔も素敵で、保育園そしてこの千代地区を愛しておられて、栄養士さん自らいつもお野菜をいただいている方や体験させてもらっている農家の方のところに取材に行つて、この方はこういう人でこういったことに取り組んでおられて、こんな素晴らしい野菜を作っているのですということ月1回、食育だよりを出しておられるのです。そういった形で発行されて、地域に発表されるといふ形で、地域の方も乗ってみたいなという思いも出てくる農家の方もおられるということをおっしゃっておられました。

あと、今どこの保育園とか幼稚園でもやっておられると思うのですが、毎日おたよりを書かれているということで、保育士の先生が毎日の激務の中で、大変だなと思って

いるのに、保育士自らこれをやりたいと進んでやっておられる。そういったところに心のゆとりがあったり、なぜそうなんですかとお尋ねしたときに、福利厚生とかいろいろなこともおっしゃっていましたが、そういったこともおっしゃっておられました。

あとはいろいろなところを見てきて、パンフレットについては、見てわかる、どういった事業があって、子育てに対するお金の使い方はどういった事業があるかというパンフレットのわかりやすさであったり、インスタグラムをされている保育園もありました。それで発信されているというところもあたり、そういったところからも、子育て層のお父さんやお母さんに対して安心感、今こんな支援事業がある、こんな支援を受けられるんだとか、自分の保育園・幼稚園ではこういった取り組みをされているということがわかりやすい、それが安心につながってくるのかなと感じました。私が行った千代地区はそんな感じでした。

## ○委員

私は千代地区と出雲崎町へ行かせていただきました。

出雲崎に関しては、海と山の形という形で、結構、住まれているところが分かれています。海側と山側にそれぞれ保育園というか幼児施設があるというところで、今言われたけれども、一番感じたのは本気度です。まちが本気でやっていますよという看板が、本気の子育て政策みたいなものを、観光地のど真ん中に乗せられている。それで職員さんもまちの人も、当然、全国みんな本気なんですけれども、それを視覚的に見せる。それはこの発信のところで、千代地区の保育園は民営なのでいろいろなことができると思うのですけれども、インスタグラムを発信されていて、私もフォローしたのですけれども、まちのお祭りに子どもたちが参加しましたとか、今日の給食はこんな感じですよということも、手作りの新聞プラス今使えるSNS等は最低限発信するということで、親御さんがどちらで見られるかというのは選択肢の1つだと思うので、手書きの新聞も非常に大事、時間をかけて作られているということなので、実際、働き方のところで少し無理を職員さんに言っているところも研修などの部分であるかも知れませんが、職員さんの表情を見ていると、離職率の低さも含めて、かなりやりがいを持って、自分たちがやりたい保育をできる限り実現させることも民間の理事長や園長先生が意識をされているというところで、一番は職員さんとそれを経営・運営される方々の思い、プラス地域がいいように絡み合って、それがすべて子どもたちへ愛情が行っているというのはすごく感じました。

今日持ってきた野菜を使って献立を変えてそのまま出すとか、なかなか規模的に難しいところはあるのですけれども、そこは工夫で活用していける部分が日野町にもあるのかなと思うのと、あとは子育て、保育・教育のところですが、まちづくりとしてどういうふうにしていますかと聞いたときに、お父さんやお母さんの方までしっかりと見えていますよというふうに、そこも見えやすいところです。子どもを中心として、国からの補助金や予算を最大限使ったうえで、工夫して何ができるのかというところをすごく意

識されている。その結果、パンフレットのわかりやすさとか、パッと見たときに保護者の方が、こういうまちに行ってみたいなというふうな、同時に移住者政策とか定住促進も同時進行をされています。

1つだけ私がすごいと思ったのは、子育て支援を本気でしているまちが、高齢者の施策をやめているというか、劣っているわけではないというふうに言っておられました。子どもを中心としてお年寄りも支えていくまちをつくるんですということ、町がはっきりとされている。

出雲崎町は、町長さんが90歳でした。40年くらい町長をされているのですけれども、他のまちへ行ったりいろいろなPRをされている町長さんですけれども、町長自身がしっかりわかっておられるというところで、予算も当然付けておられますし、面白い副町長さんと担当の職員さんがいろいろな掛け合いをされているまちだったので、たぶん職員さんの中でもある程度横断的に、課だけではなくて役場全体がそういうふうにしていこうという思いがあるので、それが民間だとしても、行政の思いが民間の職員や先生方に伝わっていることを私はすごく感じました。

とにかく子どもを中心にすべて物事を考えていきたいと思います、これからたぶん世の中はそうなると思うので、それを先進的にされているのが行かせていただいた2つの町かなと思います。

## ○委員

奈義町と千代地区に行かせてもらって、奈義町は結構お金の支援というか、子育て世帯に、高校が奈義町にはないのでバスや電車で行くことになるのですけれども、その通学費を年間24万円助成していただけるということで、一人当たり3年間で72万円、すごいなと率直に思いました。

小中学校は教材費が無料になりますし、医療費は18歳まで無料、日野町と差があるのですけれども、給食費も半額ですし、在宅育児されている、待機児童ということではなくて、子どもが家にいるから自分は働けないという保護者の方に、月15,000円の助成があったり、結構お金をかけておられるなという、子育てしている身としては「めっちゃいいやん」とすごく思いました。移住などを考えるときに、やっぱりここは目につくところだし、ポイント的にここを見る親がいると思いますので、もうここに決めてしまうくらい充実していると思いました。

千代地区に関しては、すごく地域の方との密がすごくて、野菜などを持ってきてくださったらすぐに給食に使ったりするのですけれども、それ以外にも、散歩に行ったら子どもが地域の方と顔見知りばかりというような感じで、日野町は千代地区よりも大きいので、そこまではいかないかも知れないのですけれども、もう少し子どもの頃から地域との関わりを、さらに密接につながっていけるような社会見学を、町外に行けばかりではなく町内の社会見学などを充実したり、散歩にただ行くだけではなくて、今日は誰々の畑を見せてもらおうとか、幼稚園児でも地域にかかわれるように、散歩に公園に行くだけでは

なくて、人とのかかわりをもう少し密にとっていけたらいいのかなと思います。

行政ばかりが動いていくのではなくて、地域の方を巻き込んで、行政と一緒に連携していろいろな施策を取り組んでいけるように、地域の方も自主的に動けるようなまちにしていけたらいいなというふうなまとまりになったかと思います。

## ○委員

私も千代地区に参加させていただきました。今、他の委員がおっしゃっていただいたように、本当に地域の方が地域の中で子どももお年寄りもしっかり地域で育て、見守っていくというようなことで、そういう思いが伝わってきたところがあったなと感じています。地域の方のいろいろな応援によって、自治体の方で保育所運営がなされていたのですが、保護者さんの地域と保育園側が本当に相互理解をしっかりとされておられるというところが、すごく私も印象に残りました。

保育者もいろいろと忙しい中で努力をしているというところで、私たちも一層努力をしていかなければならないと感じたのですけれども、私たち側が保護者の方に寄り添いながら理解をして、話を聞いたり、一緒に考えていったりすることが大事な一方で、保護者の方も私たち保育園側のことを理解していただくということがとても大切になってくるなと思います。相互理解をする中で、具体的なこども園の子育てのかかわり方とか家庭の役割はどういうことであるかということ学び合っていくというところが大事になってくるのかなということを思いました。

親さんも親さん自身ができること、自分たちで前向きに頑張っていこうとする力を私たちも支えていくということが大事になってくると思いますし、そのためにはやはり幼児施設のことだけではなくて地域の中で、いろいろな補助の関係とか住宅の関係とか、また遊ぶ場所の確保とか、施設だけのことではなくて、まちとしてどういう方向で楽しんで子育てをしていけるかどうかというところを、しっかりと考えていく必要があるなということを感じさせていただきました。

## ○委員長

結局、4か所を見てすごく思ったのは、それは行政会であるか自治会であるかという違いはあるのですけれど、まず課題をものすごくしっかりと認識していらっしゃいます。このままいったら、うちの集落は人がいなくなるとか、子どもがいなくなるとか、そういったところに関してものすごく危機感を感じておられます。1988年から町長をされていて、この7月に次期への立候補を表明されたということを知って私もびっくりしたのですけれども、はじめの頃から移住施策はされていたようで、まだそこまで世の中が危機感を感じてない中で、それはすごいことだなと思いました。ある時あるところの人口がすごく増えても、それがそのまま高齢化してしまったら終わりですよ。ですから、継続的に移住者が発生するということがすごく大事なことになるので、本当に方向性とか計画がしっかりとしているなということを感じました。

あと、皆さんから出てきた中に、日野町でもすぐにできることは子育てパンフレットで

す。まず、移住しようと思う人や移住してきた人、子どもが生まれそうな人がパッと見たときに、今のパンフレットでわかるかなという話があって、もっと日野町の子育てが変わるんだということを見せるためにも、まずはここから手をつけないといけないのではないかなというようなご意見がワークショップの皆さんから出ました。

あと、地域のお話をとおっしゃっていただきましたけれど、せっかく日野というのはいろいろな特徴とか良いところがあるので、そういったところをまず知って、公民館を中心にいろいろな人が動いていたりするのですけれども、こういったこともまだなかなかつながってきていないので、公民館を中心に地域と幼稚園・保育園が結びついていくと、もっと広がっていきけるのではないかなというようなことは、日野町でも応用できる話でした。

視察先は自治会で引き継いだ幼稚園・保育園で、自分たちが身銭を切っているの、他人事になりようがないから、特殊と言えば特殊なんですけれども、ただ日野でこれからやっていく中で、そういう選択肢もあるのだなということが、ここにこういうカードが出てくる理由なのかなと思います。私からは以上でございます。ありがとうございました。

~~~~~

#### ○委員長

それでは、あまり細かい背景説明をせずに先に視察の感想を皆さんにお聞かせしたのですけれども、もう少し細かく聞かないと、どういう状況でこの話があったのかわからないと思いますので、そのあたり事務局から詳細な報告をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

#### ○こども支援課長

事務局から、この視察で我々が感じたこと、また、日野町の現状についてお聞かせしながら、これから日野としてどのようなことができるのかということを考えていただくきっかけになればと思っています。

はじめにということで、これまでの活動を踏まえて今後の日野町の現状を考えるとということが報告の目的です。

ねらいとしては、このまちに住んでみよう、このまちで子育てをしてみよう、このまちに暮らすしあわせが実感できるまちになっていくよう、まずは先進地の事例を学んできて、そして日野町でこれまで培ってきた地域資源を活かした、まちの実情に合った子育て環境の将来像について、委員の皆様からご意見をいただき、今後のワークショップおよび懇話会の答申に反映できたらということでございます。

今の4つの地域を6月27日から8月27日にかけて行ってまいりました。

まず、岡山県奈義町です。奈義町は、岡山県の一番北、鳥取県との県境のまちでございます。研修先は、奈義町役場の「こども・長寿課」と、隣に「なぎチャイルドホーム」というところがありまして、その2か所を視察してまいりました。

ここの課題は明確でございまして、まずは人口減少が最大の課題であるということを確認にされています。そのために、移住促進事業をするということ掲げておられます。

その4つの柱が、子育て支援施策、住宅施策、魅力ある教育、就労の場の確保対策でございます。

奈義町は、人口は5,751人、2,530世帯、特色は、まちの中に自衛隊の駐屯地がありまして、役場の中にも、「自衛隊と共存共栄のまち奈義町」「子育てするなら奈義町で」という看板があがっております。

危機感というお話がありましたけれども、奈義町は平成14年に、住民投票によって合併をせずに単独町制を選んだまちで、町長はこのままでいくとまちが消滅するのではないかという危機感があって、様々な行政改革を断行して、先ほどお話がありましたように、高齢者向けから若者、子育て世代向けの施策を段階的に拡充したということで、高齢者施策をそのまま維持しながら若者世代へ、いかに人口維持をしていくかということの課題をはっきりとさせたということです。人口減少と少子化対策が奈義町の課題と、今後の目標ということで、現在の人口を維持していこうということです。そのために先ほどの4つの柱でやっていくということをはっきりと打ち出されております。

奈義町は、平成27年には5,906人でしたが、このままいくと2,500人くらいになると。その人口を維持しながら、4,900人を維持したいというのが奈義町の将来展望となっております。

社人研（国立社会保障・人口問題研究所）でこういった推計があるのですが、先ほどのようにどんどん、一番下の「年少人口」、真ん中の「生産年齢人口」、そして「老年人口」が、老年人口はそのまま減らずにスライドして、どんどん生産年齢人口と年少人口が減っていくということになります。それを2番目で、子どもの出生率2.3を維持したらどうなるかということですが、それでも減っていくと。3つ目で、今の人口推計にプラス出生率2.3を維持しながら、移動均衡、社会増減ゼロとなっておりますが、これは転入転出をフラットにするということで、外へ流出する人口を極力減らすということによって、生産年齢人口と年少人口を維持したいという考えを持っておられます。

日野町の第6次総合計画の中でうたわれている将来展望にも、今、人口は21,000人余りですが、令和42年、約40年度には約12,000人になると。それを16,027人維持したいというのが日野町の将来展望です。

奈義町は様々な、先ほど報告がありましたけれども、子育て支援が充実しております。単独町制を選択したのが平成14年、そのあと役場で横断的な連携をしていこうということで、危機感を各課が共有して、人口減少を食い止める施策にシフトしていきました。

まずは福祉事業、福祉医療助成を高校卒業まで無料化、そして出産祝金や先ほども言っていたいただいた高等学校への支援金ということで、奈義町は鉄道もありませんし、高校もありません。隣に大きな津山市があるのですが、そこへ通うためにはバスで行くしかないということで、そのバス代を全額補助されています。それは効果があるなと思いました。

それから2007年（平成19年）に「なぎチャイルドホーム」という、日野町でいうと「ぼけっと」みたいな子育て支援の施設を開設されました。大きな特色は、平成24年に



「子育て応援宣言」をされています。この宣言によって行政が約束をして、住民はその安心感と心強さで、このまちに住んでみようという思いが芽生えているということです。

在宅育児支援金交付事業、これもご紹介いただいたように、在宅で子育てする方にも、保育サービスの平等化も含めて、一人当たり 15,000 円を補助しようということで、家庭教育にも力を入れておられるのではないかなど、2,350 万円、町単独事業で予算を計上されています。

2017 年に仕事コンビニ事業ということで、子育てしながら就労ができる仕組みをつくっておられます。「奈義しごとえん」という住民主体の法人を立ち上げて、そこが様々な就職の支援をしているということで、高齢者も元気に、そしてまた子連れでは仕事が難しい方には、互いの子どもを見合うような仕組みもあります。

これが先ほど言いました子育て宣言です。前文の 2 行がすごく素晴らしい文章なんです、「子ども達は次代を担うかけがえのない存在で、奈義町を守り支えてこられたお年寄りとともに、奈義町の大切な宝物です」ということで、土台をつくった皆様とともに、これから育ててまちの存続につながる子どもを大事にしていきたいと思います。それによって奈義町が安心して暮らせるまちだと行政が住民に約束をした宣言です。

なぎチャイルドホームの特色は、子育て世代が気軽に来られて、子育てアドバイザーが常駐されています。一時預かりとか学童もありますし、自主保育「たけの子」というのがあるのですが、これは保護者と保育士が当番制で子どもの面倒を見ながら、ほかの人の子どもさんを見ること、それによって親の成長につながるということで、保育士が常駐している施設です。

先ほど言いました子育てアドバイザーの方です。この方は奈義町のキーマンであるといわれていまして、いろいろな子育て施策を展開されています。それと「楽ベジ」ということで、6月16日には餃子、30日にはハンバーグを、地域の方が調理して、それを安く提供して家に持って帰ったら、忙しいお母さんも手作りのハンバーグを食べられる、子どもとの会話が生まれたり、非常にいい活動だと思いました。

真ん中に、子どもの着られなくなった衣料をうまく循環して、ここではどれでも 50 円と書いてあるのですけれども、たくさんチャイルドホームの中にバザーみたいなものがあります。役場には、子育て応援スペースがあります。

ここも保育士の不足が大きな課題で、来てもらうために保育士の給料を独自給料にするなどの工夫をして人を集めています。隣にこども園を今建設中ですけれども、令和 6 年春から、木造の立派なこども園が開園されます。様々な施策を打って、結果的に高い合計特殊出生率を維持されています。

奈義町の子ども数は、20 年前から 50 人前後であまり変わってない。日野町は、2005 年あたりは 221 人でしたが、近年はだんだん減ってきて、去年は 116 人でした。奈義町の合計特殊出生率は 2.95 を達成したのですが、日野町はずっと 1.33 です。

奈義町への視察で得られたことは、町長の強いリーダーシップとか、「少子化対策は

最大の高齢者施策」ということで、人口減少を阻止していくために、子ども施策をすることによって高齢者も支えていけるという、そういう循環を目指そうということ。各課横断的な連携、住民参加型で少しずつ意見を反映させていくということで、起死回生の目玉施策ではなくて、合併した時から住民から声を聞いて、それを行政の施策に反映していくということをコツコツ実施していった結果が今になっているということ。

キーワードは安心感、ここに住んでもらったらこういうことがあるということ、担当者も言うておられましたけれども、「住むところがあって安心」という、この施策が一番、奈義町の転入がうまくいっている要因ではないかと言っておられました。若者向け住宅をかなり新しい、今の若い方に合った形に整備したり、安い家賃で入居できる町営住宅、働く場所、まちのみんなが子育てを応援してくれるという、先ほどの一時預かり制度とか、そういう取組こそが安心感につながっているということ。

でも、まだまだ奈義町でも、転入は増えていますが、出生が 50 人で毎年 100 人の方が亡くなっているということ、50 人ずつ減っていった状況です。転入転出は抑えても、死亡出生は抑えきれないということ、人口減少にまだまだ歯止めがかかっていないという課題があるということでした。

続いて、長野県飯田市千代地区です。「地域の子どもは地域みんなで育てよう」ということで、7月12日に、研修先は千代保育園とまちづくり委員会へ行ってまいりました。ここで子どもがコメ作り体験をしたり、酒米を使って酒を造ったり、園の裏に地域の方が整備された裏山がありまして、そこがいちばん一押しな場所ということでした。

それから給食です。栄養士さんが、毎日がとっても楽しいと笑顔いっぱい話してくださったのが非常に印象的でした。これが栄養士さんと保育士さんがつくっておられる新聞です。こんなキュウリが集まりましたとか、子どもが収穫している様子や、玉ねぎとか、こちらはコメ農家さんと野菜農家さんを取材して、おじいちゃんやおばあちゃんの声を新聞にして保護者に伝えておられます。千代地区だけの基本構想がありました。

この課題も一緒に、千代地区には、千代地区と千栄地区というのがあって、それぞれの保育園と小学校があるところです。千栄地区は少なく、子どもは10人を切ってきて、平成17年は6人になったと。今までから10人を切った場合は近隣保育園と統合するというのは飯田市の考え方で、その理由としては集団保育が10人未満では活かしきれないということと、経済的な面で、10人が最低ラインですということが飯田市の中にはありました。

千栄地区で10人を切ってきたということで、時系列的には平成15年に10人未満になって、千栄保育園を廃園し千代保育園と統合するか、もしくは千代保育園を民営化して、千栄保育園をその分園とするということで、市側との協議の中で提案されてきました。住民で話し合いをして、1年くらいかけて最終的に出した結論は、千代保育園を民営化して、千栄保育園をその分園とする、社会福祉法人を設立していくということを決められたということ。

なぜかという、小学校がそれぞれにあるので、千栄保育園を廃園して千代保育園と一緒にしても、また小学校で別々になるということは避けたいという地域の思いがありました。

市の提案の背景としては、今回の民営化は、千栄保育園を存続させるための手法であって、全市的な方針ではないということも、市としても何とか千代地区の特色を理解したうえで、どのようにしたら残るかということ、市と地区と一緒に考えていくというふうな背景があります。市の提案は民営化で法人設立ということですが、採算が取れなくなったときには、市が責任を持って対処するということが同時に提案されたということです。市にはサービスを確保していく責務があって、もしも経済的に採算がとれなかったら、市で面倒を見ます。千代地区の経営は千代地区の皆さんが行うという時代を今後迎えてくるであろうということです。

小規模でありながら、19時までの延長保育や、放課後の学童、夏休み中の学童クラブ、支援施設事業もやっておられ、隣にデイサービスがあるのですけれども、そこも交流され、裏山を利用した信州型支援保育の認定を受けて、恵まれた中で食育体験や自然体験を行っているということです。

利点としては、民営化したことで住民と地域の協力が得られ、保育の幅が広がったとか、地域の協力を得ながら豊かな食体験を行っている。それと先ほどもありましたように、職員が働き甲斐を持って一生懸命働いている。決して給料は高くないと言っておられましたけれども、辞める方がほとんどおられない、保育の安定につながるということでした。

問題は、園児数の減少が不安材料であると言っておられました。これが1年間の内容、特徴的なことを挙げると、田植え、梅ジュースやみそ作り等を園の中でされています。

続いて、新潟県出雲崎町です。新潟市の手前の佐渡島との近い距離で、昔は佐渡銀山で採れた港町としても非常に栄えた、海と山があるまちです。小さなまちの大きな挑戦、小さなまちだからこそできる子育て支援。研修先はこども未来室と「多世代交流館きらり」です。「きらり」の中にこども未来室がありまして、そこへ行ってまいりました。

ここの特色は、4年連続「転入超過」を実現されているところです。人口は4,041人ですが、こども奈義町と同じ子育て応援宣言を、この5月にされました。

特色は、平成30年から令和5年の5年間で出生数67人のうち、転入の方による出生が24人です。出雲崎町も日野町と同じような年々生産年齢人口が減っていくような傾向となっている。こども死亡と出生でいうと、死亡の方が多い。死亡者数に対する出生者数の割合ということで、これが同じであれば100%、それ以上になれば自然増減がプラスになるということですけれども、出雲崎町も最近死亡の方がかなり多いということですので。日野町も同じように、平成22年、12～13年前は拮抗している年もあったのですが、今は死亡があまり変わらず出生が減っているということで、増減率が落ちているという状況です。出雲崎町も日野町と同じような割合です。日野町も、出雲崎町ほどではないですが、死亡の割合がかなり増えているということです。

これが社会動態、転入転出の推移ですが、出雲崎町はここ4年間は転入の方が増えているということで、転入転出だけでいうと、人口は少し増えているということです。日野町は、令和元年は転入の方が上回りましたが、そのあとは転出が上回っているという状況です。

昨年度（令和4年）の年齢別の社会増減です。出雲崎町は、子育て層の20代～39歳までの転入が多いということです。それに合わせて0歳～9歳の子どもも昨年は増えています。日野町の場合は、同じようにここの移動はたくさんあるのですが、子育て層は転出の方が多いです。子どもも0歳～4歳は少しだけ転入の方が多いですが、あとは転出の方が多いという状況です。

これは出雲崎の取り組みです。道の駅があって、その前に「本気の子育て支援」という看板が示されています。ここの手厚い、出産期から準備金と祝金と合わせて50万円とか、乳幼児から18歳まで医療費は無料、紙オムツ支給、保育料の無料化もありますし、小中学校でも祝金があったり、「きらり」で公設の学習塾を無料でされています。高校・大学は隣町、高校は出雲崎高校があるのですが、隣町に行くためにはJRに乗っていくということで、30%の助成をしたり、社会人になっても地元就職したら5年間、毎月1万円ずつ支給されます。車社会ですので、ガソリン代に使われることが多いということです。

これは町営の住宅です。合計すると18歳まで270万円までの支援が受けられますよということがうたわれています。

これは「きらり」の外観です。平成30年に開設されました。特色は、多世代が集まる場所ということで、子育てから少し離れてリラックスする場所とか、悩まなくてもいいんだという場所ということで、アドバイスではなくて、悩み・思いが共感できる場所というのがコンセプトになっています。室長さんがかなりいろいろ上手に説明してくださいましたし、この方がこのまちのキーマンかなという感じで、副町長と一緒にずっと仕事をされていた方ですので、まちへの思いが強いのかなと思います。

ここの特色は、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない子育て支援施策をされていて、転入増の取りくみということで、実家以外の転入者が令和4年中は8世帯、全く出雲崎に縁のない方が2世帯転入されてきたということです。出雲崎は早くから農業振興区域をはずすということで、集落の中で住めるところをたくさんつくってこられたので、住宅なども建てやすい、隣に建てたり、近距離に住みやすいということがこのまちの特色であるといわれていました。

キーワードはここも「安心感」です。SNSも手作りで工夫されています。写真などは専門の方がされているのですが、住民や職員の方の手作り

新しい住民の方はどうにされているのかということ、あとから電話で聞かせてもらったのですが、移住希望者の不安を安心感に変えるために、かゆいところに手が届くサポート体制ということでやっているということで、いかにライフイメージを持

ってもらるか、出雲崎は海と山のまちなので、移住者の働き方に合った提案をしている。働く場所は大きなまちの長岡市とか柏崎市で、暮らすのは出雲崎町と割り切りを持った施策です。

それと、移住相談は人と人をつなぐということで、相談支援体制の充実と就職情報の提供、教育施設への同行訪問、一緒に行っているいろいろ案内する。医療機関とか、自治会長やママ友を紹介したり、出雲崎に住む若い方とマッチングを役場職員がやっているということです。支援体制の総務課と、住宅施策の建設課と、子育て施策の子ども未来室が連携をして、最終的に子ども未来室が主に、先ほどの室長がいろいろ同行されているのではないかと思います。自治会的に対する思いも様々、思いと違ったという部分もあるということで、そういうときには区長さんと連携をとって、地域のコミュニティは大切であるということをしつかり伝えて、区長さんと協力して納得して来てもらえるように努めているということでした。

## ○委員長

十和田市は、かなり大きな規模で市町村合併をしたのです。秋田県と青森県の県境、集落のど真ん中を県境が走るという、なかなかすごい環境です。自治会が保育園を運営されているのですが、もともとは秋田県小坂町にお住まいの方々もこちらの小学校に通っていたのです。近くの集落まで、小坂町も休屋地区から 25 km くらい離れていて、地理的にこの辺の感覚でいうと、鈴鹿山脈の山の上に集落があって、そこに人が住んでいるという感じ、かなり市街地からは離れています。

私が見学してまいりましたのは、休屋地区にある十和田湖保育園です。町内会によって運営されております。無認可型の保育園になります。基本的にはボランティアスタッフで運営されているのですが、謝金があるという形で、保育士の資格を持っておられる方が 4 名おられて、今は園児数 2 名です。学童も一緒に運営されています。

休屋地区の人口の推移ですが、十和田市全体でみると数字が大きくなるのですが、市はとて大きいので、感覚的には休屋とかなり違うという印象があります。社会福祉法人が撤退してしまって、そこからは町内会運営という形になっています。

先ほども写真をご覧いただきましたが、十和田湖の観光船の発着場です。十和田湖に行こうと思うと、一番のメインルートは道路です。青森から JR バスで行くのが多いです。八戸からも行けるのですが、2 往復しかありません。その終点がこちらです。終点から少し歩くと十和田湖の観光船があります。ですから、保育園の特徴としては、湖開きの観光船の出航を園児がお見送りしたりとか、「いちばんばす」という行事があるそうで、そのシーズンで一番初めに来た観光バスをお出迎えするという園の行事があるということが、ほかにはないことかなと思いました。

もともとは社会福祉法人が運営する時に改装しています。10 年余り前です。ですから、中はすごくきれいです。園庭もこのような形で管理されているのですが、町内会の人たちが管理されているという状態です。いろいろなところに遠足などで行くのですが、基本的

に会長か副会長の知人ネットワークで行っているそうです。園の新聞はなかなか手が回らないけれども、スタッフに若い方がいらっしゃるの、その方が来た時につくっておられるそうです。

なぜ町内会で引き継いだのか。びっくりしたのですけれども、いきなり社会福祉法人が12月に、4か月後に撤退しますと言われたと。どうしようかということになった時に、市から町内会に、運営補助金を出資するので町内会で受けて運営しませんかといわれたそうです。確かにほかの方法があるかどうか、私も考えてみたのですけれども、タクシーでどこかへ行こうと思っても、25km離れているのです。5歳とか6歳とかならともかく、未就学児が来た場合、タクシーで通えない。そうすると、保育士をどこかで拾って25km走ってここまで行って、また帰ってくるということは難しい。なかなか手がないので、まずは町内会で考えてみないかという話になったのだと思います。

ただ、町内会でもいろいろ議論が起りまして、保育園がなくなると若い人やこれから子育てする世代が困って、地域が衰退してしまう。隣にもう1つ人が住んでいるところがあるのですけれども、そこに小学校がまだ残っているのですが、そこもなくなってしまっているのではないかとこのころまで町内会で話し合っ、何としても町内会で続けてやりましょうということで立ち上がったのが経緯だそうです。他の事例を見たとか、そんなことは一切なく、市から相談を受けて、町内会で考えてして、いきなり始めたとおっしゃっていました。

市もすごいなと思うのは、年度末まで残り4か月という段階で、「託児・学童保育支援事業」ができて、この事業の補助金先として休屋町内会に、750万円のお金が出るようになったのです。今は最低賃金の上昇や燃料費の高騰で820万円だそうです。休屋地区専用の事業だですので、急に何とか維持できるようにということでこういう事業を立ち上げた。土地・建物に何かあった時には市が管理して補修しますとおっしゃっています。保険料や消耗品は町内会負担で、補助金で手当てができなかったとしても、町内会費からの繰り入れもあったとおっしゃっていました。

社会福祉法人時代に保育士をされていた方が、引き続き働いておられます。ということで、さらにきめ細かくできていると。何より、法人で保育士をやっていると、法人の考えなどがあって、なかなか自分の思うような保育ができなかったそうです。この保育士さんは何度も辞表を書かれたそうですけれども、結局続けてやってもらえたのですが、今すごく、給料は謝金で受け取っておられるのですけれども、その面ですごく恵まれているということはないけれど、とにかく子どもに対してやってあげたいと思うことをやってあげられる、気持ちに余裕があるということが、続けられるものすごく大きな理由だとおっしゃっておられました。

町内会でやっているの、応援しようという人が集まっているので、みんな同じ方向を向いている。それはものすごく大きいことだとおっしゃっておられました。ネットワークを駆使していろいろなところでイベントを企画したりされているのと、もともと学童が

併設されているので、卒園されても学童に来ておられるので、切れ目なく子どもたちを見てあげられるということもおっしゃっておられました。

ただ、全部引き継いだわけではなくて、0歳児は今、受け入れはできないそうです。それから栄養士を別途雇う余力がないので、部屋はありましたけれども、給食が出せないと。保育士の最年少が64歳の方で、4人いる保育士の最年長は80歳の方です。月に数回入っておられるそうです。それでもすごく助かるとおっしゃっておられました。この懇話会で皆さんから勉強させていただいて、最新の保育と昔の保育の違いもお聞きしましたが、現地へ行くと、最新の保育ではないなということは素人目にもわかったのですけれども、すごく気持ちを込めて皆さんやっておられますので、それに対して良いとか悪いとは言えないと、すごく思っていました。最新の保育がされているということでは、ちょっと違うかも知れません。

あと、観光地なので、土日や夏休みは、かき入れ時なので休めないそうです。それでもシフトを回していかなければいけないので、そういう意味で、80歳の保育士さんにも入ってもらえて、すごく助かっているとおっしゃっておられました。以上です。

#### ○こども支援課長

4つの報告をさせていただいて、そこを目標に日野町のこれからの人口減少、少子化対策は何かを考えていきたいと思えます。

日野町、奈義町の人口推移でございますが、それぞれ、このままですと減っていくことになっていきますが、これをいかに維持していくかということが課題になります。

強い危機感が奈義町にも千代地区にもございまして、課題がはっきりしているというところで、奈義町では全施策を人口維持に向ける姿勢であったり、出雲崎町では安心感の芽生える選ばれるまちとして今後存在していくということです。

日野町では、同じように、各課の施策に横断的に横串を刺して、まちに合った支援策を実施して、人口維持をしていくということになると思えます。先ほどの人口将来展望ですが、16,000人にするためには、できる限りの対策をしていく必要があるということです。

日野町の展望人口について、どのようにしていくかということを考えていくことになっていきますが、出生率の上昇、転入転出をいかに均等化させるかということ、これが将来展望人口です。これを日野町に落とした時にも同じようにも同じように、少子高齢化は今の課題であるので、いかにして現在の人口を維持していくかということを考えていく必要があります。2062年には12,459人、高齢化率が42.5になるということも、対策が必要になるところです。

それぞれの奈義町、出雲崎町ではどのように取り組んでいたかということで、奈義町では4つの柱、子育て施策と住宅施策と魅力ある教育と就労の場の確保。出雲崎町では、生まれてから切れ目のない子育て支援と、異年齢が交流できる子育て支援の両輪。出雲崎町は江戸時代に反映した港町で、良寛という有名なお坊さんの生誕地でありますので、まち

の誇りをどのように未来へ引き継ぐかということを考えておられました。日野町でも同じように、近江日野商人の「三方良し」の精神から「世間良し」ということで、好循環を生んで、持続可能な経営理念が今の日本の社会の中にも必要ですし、どのような将来像を持って、持続可能なまちをつくっていくかということを考えさせられる研修となりました。

先ほどの出生率についても、まちに若い方が来ていただいて、子どもがたくさんいるまちになるかということところです。

先ほど紹介させていただいた転入転出の比較ですけれども、日野町は、実際には社会情勢の中で外国人の転入転出が非常に多いというのが特徴でありまして、令和4年中は転入した人数が860人、転出が848人ございまして、12人転入が上回る社会増となった。年齢層では0～4歳と35～39歳、40～44歳、45歳～49歳は社会増が10人ほど上回っていると。しかし、外国人の移動が近年多く、日本人だけで見ると、転入者が552人、転出者が614人で、62人減っているという状況です。

一方で外国人では、転入者が328人に対して転出者が234名で、94人増えたということで、外国人の方が増えたことによって昨年度は転入が12人多かったということです。

ここ10年で、10歳以上年齢階層別人口を表わしたグラフですけれども、減少した年代は、30歳代以下はすべて10年間の間で減少しています。減少幅も大きいと。特に30歳代と20歳代の子育て層が大きく減少し、子どもの出生数も減少するという悪循環が起きている状況です。

一方、増加したのは高齢者の世代と40歳代の層のみということなんです。

現在、昨年から人口が100人少々子どもの出生が急激に減ってきているという状況ですけれども、今の状況、令和5年8月現在で49人の子どもさんが生まれているのですが、昨年と数が変わらない状況で、非常に今後のことも考えて危惧する部分であると思います。

これは地区別の2008年（平成20年）から推移して、下から日野地区・東桜谷地区・西桜谷地区・西大路地区・鎌掛地区・南比都佐地区・必佐地区という色分けをしております。学区別で言いますと、日野地区が非常に多かったのですが、昨年41人と大きく減ってきている状況で、中道などの若い子育て層の子どもの数も落ち着いてきたというか、減ってきた状況でございます。東西桜谷地区の人口も、減り方が大きくなっているのが現状です。ほかの地区は減少傾向ではありますが、そう大きく変動しているわけではないということも1つ言えるかなと思います。

子育て環境の将来像は、何に重点を置いて人口維持を図って子育て支援施策を進めるのかということで、日野に住み続けよう、新たに住んでみたい、日野に帰ってこようという施策への転換が必要になっているということで、生産年齢人口・年少人口をどのように維持するかということが、町の課題であります。

提起1・2ということで、空き家の整備なども進めてはいるのですが、どこにターゲッ



トを絞るとか、今も紹介した視察先のところはもう危機感が強く、まちの存続がかかっているということで、転入を増やすということに重点が置かれているわけですが、日野町はそこに重点を置いたというよりも、まちに愛着を持って住み続けようとか、帰って来ようというようなこと、あるいは日野は暮らしてみたいまちだと思って移住していただけるということをコツコツと、行政も各課横断的な議論をしながら、豊かな自然と地域がつながる中で暮らす安心感を学んできたと思いますので、その辺のところを基軸にこれから議論をしていく必要があるという中で、懇話会の役割というものが皆さんのご意見等も大きな役割を担っていると考えております。

最後になりますが、安心感の醸成ということで、研修で「地域の子どもは地域で育てる」、「子どもは地域の中で育つ」ということを改めて学びましたので、愛郷心を持って、地域の子どもは地域で守っていこうというような気持ち、長い目で将来を見据えたまちの循環が生まれていくためには、効果的な取り組み、懇話会の議論を今後も進めてまいりますようというところでございます。

以上でございます。ありがとうございます。

#### ○委員長

ここから皆さんと意見交換していきたいと思います。なぜ懇話会のまとめを先にしゃべらせていただいて、事務局の発表を後ろに回したかというのは、事務局の方で思われた意見を出していただいたわけでありますので、我々がどうとらえるかというのは、またこれから議論をしていくことになるのかなと思います。

それでは、懇話会のここまでの発表について、何かご意見がありましたらお願いします。ご質問、ご感想でも結構です。もし誰も手が挙がらないようでしたら、私から指名させていただきます。

#### ○委員

視察に行かせてもらったところと、大きくは人口規模等、目指すべきところの比率は、人口動態はほとんど各市町とも、数自体は違いますけれども、比率は同じかなと思います。

私も保育と教育について、専門的な知識はないのですけれども、できる限り勉強させていただいて、都市型の保育と里山保育という感じで、規模と地域性によって必ずしも保育や幼児教育の在り方が一緒というのは、そこが一番その地域に合わせた保育をされているというところが、どこの地域にも通じる場所だと思います。日野町には7地区、旧の小学校区の地区がありますけれども、公民館もありますけれども、やはりどこかで横断型というか、子どもたちの現状に合わせた園の再整備をしていく必要があるのかなと思います。

特に日野町の、今までは良いところだったのですけれども、その良いところが逆に邪魔をしてしまっているというのは、保護者や子どもたちにはそういったことは関係ない話なので、日野町で住んでもらおうと思うと、行政、それから地域の代表の方を通じた、どこかで協力体制がさらに再構築されないと、ここの小学校区ではこうだとか、小学校の機能というのはまた別にあると思うのですが、幼児教育保育の部分ではやはり日野町の今ま

で数十年やってきた体制、施設の建屋も含めると、大きくどこかで踏ん切りをつける時になってきたのかなということは感じています。

#### ○委員

パンフレットを見て思いました。日野町でも作ってくださってはいるのですけれども、どうしても視覚的に見たときにわかりづらかったり、伝わりにくいところはあると思うので、パンフレットを見せてもらおうと視覚的に見るだけで安心感があると感じました。

#### ○委員

私はやはり日野町はすごく真面目なんだと思います。いろいろなことを真面目に受け取っているので、こういう形になるかな、ああいう形になるかなというところをきちんとしてないと、行政として取り組んでいけないなという考えがあるので、そういう考えは止めた方がいいのかなというふうに思うのです。

というのは、役場で行政を動かしている人数よりも住民の人数の方が多いわけで、住民の人の情報量が圧倒的に多いというのはすでにわかり切っている話です。パンフレットについても子ども子育て支援課の1人とか2人で作っていて、その人たちの知恵も知識も限界があるので、こんなくらいしかできませんでしたというふうな形になってしまっているというところでは、もう少し行政側としては、住民を信用して、信用してないわけではなかったのですけれども、一緒に協力するということと、思っておられることをいっぱい言ってもらって、議論してもらって、行政の立場としては、じゃあ、皆さんが言っているところをこういうふうにまとめますけど、これでよろしいかという提案ができればいいのかなと思いました。

そうすると、先ほども沢山色々な事例を出していただいて、見せていただいたのですが、人口規模とか住民の歴史、どういう条件だったとか、そこまでしようと思ってもだめなんだなというふうにはいつも感じてきたので、今住んでいる住民の皆さんがどこをどうしたいのかというところを考えていけないのかなと思います。

子育てに関しては、子どもをこんなふうに育てたいという思いがいろいろあると思うのですが、でも「こんなふうに」というのを限定してしまうと、限定したところからはみ出た人はどうしたらいいのかということになってしまうので、そのの行きつく先を決めるのではなくて、どういうところで育てる、どういう環境でとか、これがあるところで育てたいとか、それを1つずつ充実させていくのがいいのかなと感じたところです。

#### ○委員

人口推移のところ、人口減少になっている中で、日野町に住み続けたいと思えるにはどのようにしていくことが一番なのかなということを考えます。どうしても結婚を機にというのが大きな分岐点になるところがあるのかなと思うと、結婚を機に地区にとどまるのか出ていくのかというところで、今まで自分が生まれ育ってきたところで家庭をつくって子どもを育てていきたいと思えるような今までの体験が必要になってくると思いますし、そしてまた、実家の隣に家を建てたり、近いところで自分の新しい生活を始

めていけるような環境づくりが大事になってくるのかなと感じました。

これからも、自分の子どもを自分の地域で育てていきたいなと思うのにあたり、その地域に合った保育というのはとても大事だと思いますし、本当に日野町を外から見たときに、誰もが豊かな自然が素晴らしいということを書いていただくことが多かったり、日野のまちに来たら温かい声をかけていただくというようなことも聞いたりしていますので、その辺は私もとても強く感じているところでありまして、その点を活かした保育をしていくということが必要になってくるのかなと思っています。

ただ、やはり日野町にはそれぞれの地域・地区に魅力的な自然環境があるので、いろいろな場所に行って自然体験ができるというようなことを考えるときに、どうしても移動手段が大変だと思うので、そのあたり含めて考えていく必要もあるのかなと感じています。

### ○委員

人口減少というのは、今や日本のどのまちでも大きな課題であって、総人口が減少していく中において、日野町は同じような経営能力でやっていけるかという部分は危機意識を持っています。確かに地域に根差したそのような施設があればいいのですけれども、それでいくと、日野町の経営がそのまま成り立つかという、大変厳しいと個人的には思っております。

幼保の施設もかなり老朽化していますし、特に必佐小学校などもかなり劣化がひどいという状況で、何とかしないといけないという思いを持っているのですけれども、結局、お金なんですね。だから、言われるようにいろいろな施策をどんどん出していっても、結局は入ってくるお金というのは限界があるので、その中でどう行政はしていくかということを考えていかないといけないということが大切かなとことで、先ほども言われたように、規模に応じて見直すというのは、実際出てくるのではないかと思います。

あわせて先進の事例でありましたように少子化対策をどのようにしていくかということとは当然、この場の議論も大事ですが、また別の場の中でも町としては検討していかないといけないのではないかと思います。

### ○委員

先進地4か所の事例を見せていただいて、それなりに各地先では頑張ってやっておられるというか、かなり極端なところまで差し迫った危機感を持ったところで始められているという部分が結構あるのかなと思います。

それと比較して、日野がどうかといわれると、まだなんかフワッとした感じで、何とかなるのではないかというふうな思いが住民の方に結構あるかなと。その辺の危機感をどのようにお伝えするのかということだと思います。まだ何とかいけるのかなとか、そんな雰囲気ではなく、日野町としては今こういう何か手を打たないとだめだということを打ち出す時期に来ているのかなという感想を持ちました。

ただ、良くも悪くも、日野町という合併する前の1町6村がそれなりに自治能力をこれ

まで持ってきて、その中で完結してきたという、それは小学校単位もありますし、公民館活動もそうですけれども、そこでの自負があってやってきたものが、かなりハードルが高くなっていて、これからの活動をしていく中の制約になってきてしまっているというのは大きな阻害要因かなとも思っているの、良いところは残して、その辺の意識も住民の皆さんから取り払っていく部分も今後考えていく必要があるかなと思います。

## ○委員

いろいろと見学に行かせてもらったり、報告を受けて、莫大な情報量でなかなかそこをどういうふうに集約していかなければいけないかというところが本当に難しいなと思わせてもらっています。じゃあ、僕たちがどこに向かっていくのかということも、本当に悩むというか、どういうふうに住民の方々に発信していくかということも難しいなと思います。

先ほどもおっしゃったのですけれども、町民一人ひとりに危機感を持っていただく。ほとんどの方が、まだ大丈夫だろうと思っておられます。こういうふうに数字で見たり、いろいろな傾向で見ると、行く先危機的な状況になるというところを皆さんに示していかなければならないなというところは、改めて感じたところでもあります。

また、他のところを見ると、自分たちの持っているまちの魅力を十分にみんなが知ったうえで、その魅力を園児たちや地域に還元して、なおかつ外にもPRされている。自分の持っている、地域の持っている魅力を最大限に活用されているというところが感じましたので、もう一度、日野町の魅力って何だろう、子どもたちにどんなことを伝えてあげないといけないのかな。先ほども小学校ということも出てきたのですけれども、コミュニティスクールであったり、様々なところで地域の魅力を教育活動と結びつけてということ先立ってやっておられる機関もあるので、そういったところを、今度は保育園・幼稚園現場で、もっと最大限に、自由度のある中で日野町の魅力や自治の魅力、日野町はそれぞれの自治があって、その中での1つの園がその自治の魅力を最大限に発揮できるような園になっていけると一番いいなと感じます。

その園の中身にしても、離職率などを考えると、子どもたちのために、この地区のために、この自治のためにというところの働き甲斐が持てるような、保育士さんが働きやすい環境が整うといいのかなと思いますのと、あと、今、具体的にどの園をどのようにというところも、また検討していかなければならないのかなと少し感じたところです。

## ○委員

私は日野に移住して10年になります。日野町に来てよかったなと思うことはたくさんありますが、私が住んでいるのは昔からの集落で、夫と共に字の活動や役には積極的に出ていることから、常に危機感を感じて生活をしています。移住仲間ともよく話をしますが、移住者は特に先住の方よりも危機感を感じていると思います。私が今回、この懇話会に応募させてもらったのも多くはそれが理由です。

個人的にオーガニック給食推進委員会という会を3年前に移住者中心で立ち上げて、

「どうにかオーガニック給食を学校給食に取り入れられないか」という議論を町と繰り返してきました。すると、ちょうどタイミングが合いまして、今年の10月から必佐小学校と必佐幼稚園に、十禅師の農家さんの有機米を週に3回程度提供することが決まりました。

わたしたちは「有機」が良くて「慣行」が駄目と言いたいわけではありません。世界的にオーガニック・有機の大切さが叫ばれている中、せっかく日野町で有機農業をされていて、しかもその農家さんは子どもの給食に安心安全な食べ物を食べてほしいという強い思いを持って作られている方です。これを言うてしまうと必ず「慣行は安心安全ではないのか」という議論になってしまいますが、そうではなく、無農薬のお米を子どもたちに食べてほしいという強い思いで農業をされている農家さんが日野町におられるということ、ぜひ皆さんや子どもたちに知ってほしいという思いだけでやっています。それは、将来的には日野町の魅力の一つにもなり、繋がっているわけです。日野町に来られた方は誰もが豊かな自然があって、すごく素晴らしいと言っただけですが、その土地で育てられている作物が人にも環境にも安全なオーガニックな農作物であるということもまた日野町の魅力の一つになるはず。それによって「日野町に住みたい」と、移住者が増えることもあるかもしれません。最近では、わらべ保育園に子どもを通わせている仲間が、保育園で味噌作りができないか掛け合ったりもさせていただきました。

オーガニック給食のことも繋がっていますが、もう1つは、日野町はいろんな意味で遅れているなというのが今回の報告を聞いてすごくよく分かりました。「持続可能」「少子化対策」「近江商人三方良し」「人口創設」など、ありきたりで流行りの言葉を並べるのが日野町の特徴的だと思います。「近江商人三方良し」は全国的に見ても日野町の魅力の一つかもしれませんが、そんな言葉を並べて済ますのではなく「子どもは宝」だと、「子どもなくして持続可能な町はない」ということを、町が大々的に言っただけだと思えます。それを言わない限り、こういう懇話会を何回やっても意味がないと思えました。

#### ○委員

私も報告を聞かせていただいて、日野町でも冬に日野菜を収穫する、園に通っている子のおばあちゃんが、日野菜を作っても売れないから収穫に来てくださいと言って、収穫させてもらったことがありました。今回、似たような活動、食育活動に近いこともしているなとは思ったのですが、お金の問題がすごくあるかなと思えました。

妊娠から子育て期まで切れ目のない支援があるというのはすごく魅力的に感じましたし、けれど、これをするとなるとすごいコスト、予算がかかってくると思うので、どこまでそれを日野町が見てくれるのかなと思えました。

#### ○委員

先ほども言われたように、日野町で財源の限度は確かにあると思うので。その中で、公民館とか各個人の強さみたいところを出していくには、各個人が危機感を知らなければいけないですね。そこを知ってもらう手段を考えないといけないのですけれども、それ

を知ってもらってから、行政だけではなくて自主的に自分たちがいろいろやっ払いこうと、行政のお金や力を借りるのではなくて、自分たちで日野町をどうにかしていこうと、園とか施設だけではなくて保護者も自ら考えて、どんどんと行動していかないといけない時代になってきているなと思います。

長い目で、長い施策になると思いますので、子どもたちも今生まれている子どもたちは10年後、15年後に、この問題に今の私たちと同じようにぶち当たると思うので、今から子どもたちにも日野町の現状を、悪い意味ではなくて良い意味でしっかり教えていって、授業の一環でもいいし、食育の一環でもいいのですので、良い意味で日野町の良さを伝えていって、日野町の現状を自分のことのようにちゃんととらえてもらえるような、日常でそういったことをしていくと、「自分のまちだから」という意識が子どものころから育てられて、大人になった時に、町外へ出ていかずに自分のところに残って、あれをしよう、これをしよう、こういうことをしたいということをも自分から思えるのかなと思いました。

## ○委員

皆さん、たくさんいろいろなご意見を言われましたので、そのとおりですけれども、幼稚園・保育所を訪問させていただいていますと、保育士不足ですけれども、園の中にはたくさん保育士さんがおられるのです。それなのになぜ保育士不足といわれているかというのは、やはり外国人の方が多いとか、支援する人が必要とか、だからどうなんだといわれると私もわからないのですけれども、やはり正職員の方の負担が大きくなっている。離職される方も毎年多いので、その辺をまた、視察に行かれたところとは違うかなとこの点しっかり考えていただきたいなと思います。どこかで保育士さんが64歳で最年少、80代の方もおられると報告がありましたけれども、すごいなと思います。年を取られると遠慮されるのです。私はどこへ行っても最年長だからと行かれなくなる。ラジオ体操にすら来られてないのです。考え方がそうになってしまう。お年寄りの方にも生きがいというか、出て行っていいんだよという気配りをしていけたらいいなと思いました。

敬老会も5年ほど前まで、今まで働いてこられた人に感謝をしよう、ありがたいの気持ちを持って接待しようという形になったのです。最近ではコロナでなくなったのですけれども、敬老会は、敬老の人が敬老会をしているみたいなどころがありますので、みんなで楽しむ敬老会という感じに行っているのではないかと、それは良いことだと思っています。

もう1つ、私の知り合いで大学4年生の子がいて、コロナで大学に行けなかったのですけれども、バイト三昧で、コンビニとか配達とか、様々なバイトをしていたのですけれども、今、就職が決まって、農家さんのバイトを夏からしているそうですが、農業ってこんなに面白かったんだという感じで、その家は農家ではないので、本当に農家知らなかったのですけれども、すごく、草刈りも面白い、稲刈りも面白い、休憩時間にいろいろなことを教えてくれるとその子が言っているそうです。もう就職が決まって農業ではないのですけれども、地元が好きな感じで、そういう子どもが増えてくれるように、農業はしんどい、つらいというだけではなくて、若い世代に住んでもらうように、子育て政策とあわ

せて若者対策も進めてもらえたら、転出者も歯止めがかかるのではないかと思います。

### ○委員長

ありがとうございます。残り時間が少なくなってしまっていて、全体の話もあるのですが、今皆さんからいただいたご意見を聞いていると、危機感をどう共有するのかというのが1つの大きな課題になっていると思います。

また公民館ワークショップをする予定になっていまして、答申作成に向けてという2つ目の議題の中で1つ思っているのが、課題をいかに皆さんと共有するのかということが1つ大きな宿題だと思っています。私自身も少子化というのは、日野町も数字などを出していたので、数字的には理解していたのですけれども、正直、視察に行ってみると、ここを起点として本気で考えないと、いくらいい園をつくっても入る子どもがいなくなってしまうということを私もすごく感じているところです。

1つは、答申作成に向けて、地域の方に、まずは日野が抱えている課題を、他との対比も見せながらしっかりその辺は、今日の皆さんの意見の中にもたくさん出てきていますので、ぜひ後半のワークショップでやっていきたいと思っています。

### ○副委員長

視察にも行かずにお聞きしているだけなんですけれども、私は園の経験者ということで参加させていただいているのですけれども、もともと私は〇〇町という、日野町よりもっと小さいまちの公務員でした。その時まちづくりにすごく関わったのです。

日野町以上に過疎が大変で、人口はどんどん減っていくし、子どもも減っていく。でも、日野の中にはそれぞれ、小単位ではあるかも知れませんが、いろいろな宝がありますね。この間たまたま日野町のニュースが出ていて、すごく馬力のあるまちだなと思ったのです。でも、1つひとつがバラバラだったらそれで終わってしまうけど、先ほども出ていました日野の農家の方の力ってすごいよね、それを給食の中で活かすなんてすごいことだなと思う。そんな素晴らしい、光るような取り組みがあっても、それが町の中の1つ大きな軸の中の1つとしてみんなが周知して動いていかないと、バラバラで動いていたら、やる人がなくなったら消滅していってしまうような気がするのです。

私が〇〇町にいたときには、各課横断、いろいろな課で共有し合い、何度も会議をしていく中で、〇〇町でできることは何か、こんな子育て支援ができるかなということを、集まって話し合っていたのです。

そしてそれを自分の課に持ち帰って、自分の課でやるべきことをやっていたのですが、それでもなかなか進まなかったのですけど、役場の職員だけでは絶対無理なので、そこに地域が入ってくれた。例えば柚子をたくさん育てている方がおられて、自分たちは柚子でいくわと言って、今も通ると「柚子のだいどこ」という看板があがっていたりとか、「〇〇の出生地」ということで頑張っておられたり、それは役所がやっているのではなくて地域の方がすごくやっておられるのです。それをどれだけ進んでいるかわからないのですけれども、今聞いていて、日野にもいっぱい宝があるのだったら、それが大事だなと思っ

でも、自分がどう参画したらいいのかわからない人がいっぱいいらっしゃるので、参画できる方法があるということをお知らせしなかったら、例えばボランティアをしてみたいなと思っても、どこに行ったらいいかわからなかったら結局やらないので、誰でも受け入れられるようなネットワークをつくったり、仕組みは行政さんで、やるのは市民参加という形になったらすごくいいなと思いました。

それと、このようなパンフレットを見たらすごく、住みたいなと思うのではないのでしょうか。子育て支援のところで、お金のことと、オムツを渡しますよとか、保育園も充実していますよとか、テーク別にわかりやすくつくって行って、そのテーマのところにかかわる課がチームをつくって、住民さんも一緒にやっていく。日野町に住んだらこんなに面白いことがありますよとか、こんな祭りがありますよとか、農業体験もできますよとか、おいしい野菜がいっぱい食べられるとか、そういうことを掘り起こす課と協力できる住民というチームをつくっていくと、日野はものすごくよくなるのではないかと聞いていて感じました。

## ○委員長

ありがとうございます。非常にいいお話をいただいたと思います。確かに日野は、たくさん眠っていることはあると思うのですが、どう動きだしたらいいかわからないところがあるのかなと思っておりまして、そういったところも考えるためにも、今度のワークショップで引き出せたらなと思っております。ありがとうございます。

この話を議論していくと、もう1つ避けられない課題がありまして、それがここに書いてある2つ目の「コストの見せ方」ということです。例えば、今ある幼稚園・保育園を全部存続しようと思うと、築年数30年を超えるから全部改築なり補修なりしないといけなのですけれども、そういったことを皆さんに見ていただくために、何が正しくて何が間違っているということではなくて、何にどういうお金がかかるのかということを見せないといけなのですけれども、どういうふうに見せるのかということで1つアイデアを考えたので、ご意見があれば突っ込んでください。

例えば、子ども園・幼稚園・保育園がこんな感じでできますよということになったときに、こぼと園と同じ敷地のものがあとどれくらい要るのかとかいう、そういう範囲で見せたらどうかと思ったのです。

なぜかという、こういう場合、よく〇〇億円とか出てきますね。例えば今も大阪万博で〇〇億円かかる予定だったけど、もう少しかかりますよという話になっていたり、身近な例でいうと、どこかの市庁舎の建て替えで、予定の金額と、そうではなくてあだこうだとか、市長が失職したりとか、揉めていたと思うのです。金額は、今の情勢ではどんどん上がってしまう。金額の話にしてしまうと、要らぬ議論を招いてしまいそうなので、とはいえ、必要な面積などは変わらないですね。子ども園をつくるのだったら法律でどれぐらいの面積とか必要だとか決まっています。ですから、こういう見せ方をしてもいいですかということをお皆さんに聞きたいところです。



公民館ワークショップのときに、どれくらいかかるのかということは見せないといけないのですけれども、数字にすると数字が独り歩きしてしまって、じゃあそれを安く抑えたらそれでいいのかという話でもないと思うし、数字はどんどん変わってしまう。海外情勢とか、今は金の値段などもずいぶん変わってしまっているんで、それを皆さんに聞いていただきたいと思っています。

あと、もう1つは、去年のワークショップで回った時にも話題になっていたのですが、少子化を避ける1つの選択肢として転入を促すこともあるのですけれども、そもそも皆さんの集落が望んでいるのかどうか、聞いて回らないといけないと思っています。別に転入をしなければいけないというものでもないし、気が合う人だけ来たりとか、Uターンだけ認めたりとか、場所によって状況は違うと思うのですけれども、そのあたりは各ワークショップできちんと聞いておいた方がいいのかどうかという気はします。というのは、あまりにも各地域の個性が違いますから。

それから付け加えて一番下にも書いたのですけれども、ワークショップで回っている中で、園の子どもたちの声に対する騒音クレームが出ているところがあると聞きました。私は、これは都会だけのものだと思っていたら、日野でこういう声が上がっているのでびっくりしましたが、これは今後の園の改修などを考えるうえで、受け入れるかどうかというのは、ぜひそれぞれの公民館で聞いてもらわないといけないかなと。そういう覚悟がないと、これをつくってみましたが、周りの住民が反対して移転せざるを得なくなりましたということではお話になりませんので、ということをお話しております。

答申策定に向けて2つ、これだけは住民の方にお示しせざるを得ないことではないかと思っているのですが、皆さんでご意見がありましたら聞かせてください。

### ○委員

保育士を確保するのは確かに困難な状況だというのははっきりしてしまっていて、そういう中において、今の園のままでいけるのかという不安も行政は持っていますし、仮に今のままでいって、少人数で保育することが適正なのかということも、住民さんの中でも議論をしてもらう必要があるのかなと思います。

低年齢児や未満児などでは小規模多機能という形での保育園・幼稚園・子ども園があるかと思うのですけれども、一定の年齢に達した段階において、2人や1人で運営することが適当なのかということも議論してもらう必要があるかと思っています。

### ○委員長

去年のワークショップの時にそこは話題になりまして、どちらが正しいのかという話を私はあえてしませんが、意見としては2つあったということでとらえていただきたいのですけれども、やはりある程度の集団規模があった中で、先生1人あたりの園児数が少ない方が、ちゃんと決められた人数でやっているのが望ましいとおっしゃる方と、いや、そうではなくて園の規模自体が小さいことがうちの子どもは安心して園に行けるというふうにおっしゃる方と、2つありました。

これはどちらが正義という話ではないと思うので、引き続き確認はしていかないといけないと思っているし、私自身も不登校の人間だったので、町内でできればいろいろな選択肢があった方がいいのではないかという気はしております。ぜひ引き続き確認していきたいと思います。ほかいかがでしょうか。

## ○委員

騒音問題とか、確かにあるなということは感じています。第2わらべ園にしても、地域住民の理解は難しいところが多少はあると聞いています。でも、周りの住民は協力しようという方も多数おられるというのも間違いです。子どもたちのためにできることはないかなというふうに考えておられる住民もおられるし、近くになかなか畑もないから、じゃあ私の畑を使ってもらってもいいと聞くこともあります。

ただ、運動会とか様々な面で、園の中でやる方が子どもたちの安心感につながったり、子どもたちが最大限の力を発揮すると思うと、園のあその場所でやるのがいいのかなと思うけれども、そういったところをちょっとでも打開というか、そういうふうに考えると、少し場所を考えるということで、特にいろいろな行事の騒音とか練習とかが問題になることが多いのかなと思うので、子どもたちを主体に考えつつも、近隣住民との関係も大事かなと感じました。

あと、転入をどう考えるかということですが、とても小さな自治会の中でも、やはり人が来てほしいと。来てほしい、来てほしい、来てくれた。でも、昔からいる人はこんなに努力しないといけないのに、来てくれた人は何なんだということも確かにあります。でも、その一定のルールはあるのですけど、ルールをしっかりと理解をしてもらった中で自治会に入ってもらおうということが大切なのかなと感じます。なかなか、「転入がいい」だけではなくて、私はこの前の話し合いの時も言わせてもらいましたが、歴史文化の継承というところで、どのような形で今後残していくかということも大切になるし、それだけではなくて臨機応変に、中堅層の人たちが過ごしやすく、若者に引き継ぎやすい形をつくっていかなければならないのかなと思います。

あと、地域の運営にどうかかわるか、そういったところの意識というものをどういうふうに伝えていったらいいのか。個人的なところでは、ワークされる前に、ワークしますと行って集まる人はこのことに対して興味がある人が多いのです。でも、興味のある人だけが集まっても、それ以上の広がりがなく、ワークの前がいいと思うのですけれども、もう少し地域の自治会の核になる人たちをこの会に呼んで、行政側の役場の人もいろいろな課を呼んで、分け隔てなくたくさん論議をする中で、やはりその人たちは力を持っていて、ネットワークも持っていて、コミュニティも持っている人が多いと思うので、その人たちが地域帰って他の人に伝えて引き込んでくれる。どんどん危機感とか、その人を基軸にしていろいろな人に話が広がって行って、少しでも多くの人に危機感を持ってこのワークショップに臨んでもらって、いろいろな話をする中で、また新たな地域の人とのかかわりや、その地域の特徴が見つけられるのかなと感じています。

## ○委員長

ありがとうございます。ワークのところでもこれだけ様々な意見をいただき感謝します。時間が長引いてしまっているのも、他にこれだけは言っておきたいということはありませんか。

## ○委員

今、言われたのですけれども、公民館ワークがどれくらい効力を発揮するのかというのは、公民館というのは、日野町では1つの社会教育の中心でやってきたのですが、そこに出られている区長とか代表の考え方みたいなもので、結構地域性が出ているのです。大小地区がそれぞれあるのですけれども、今の公民館で行うワークが、こういった公募などで来ていただける、特に子育て世代の方、今の住民とか、今の保護者とかこれから保護者になる人がどう思っているのかということを反映させて、コストのところはまた違った形になってくるので、当然お金がないとできないのですけれども、その意見を反映して行政でまとめていただいて、次の子育て世代に反映させるのが目的なので、いろいろな地域の方に来ていただくのはいいのですけれども、それは一旦やっていただいたという前提で、もう1回公民館ワークをするのが効果的かなと思うと、もう少し絞って、人選をある程度、この分野で活躍されている方とか、例えば農業代表の方とか、もともと農家の方とか、そういった方を私たち以外で求めて公募していただいて、また公民館とは違った質の意見が出てくると思うので、ちょっと今、日野町の公民館は公民館によって差があると思うので、出てくる意見も結構偏ってしまうと思う。1回、町内でやったということは、地域のいろいろなことを話してくれる方には、一応行政として対応はできると思うので、実際またワークするというのは、先生も答申をまとめていかないといけないと思いますし、私も立場上、これから具体的に宣言をして早く動くみたいのところ、パンフレットも含めて、本気度ってその辺かなと思うので、一保護者、一住民としては、これから5年でも後ろにいつてしまうと、かなりその間に転入してきていただいている方と、その5年、10年が勝負なので、ある程度、住民側も覚悟を持って出てきている方も多いと思うし、そういつていただいている同世代もたくさんいるので、上の世代の方がいろいろ言われたとしても、ある程度この息子・娘世代が関わることで対応できるかなとは思いますが、そうでないと日野町は前の自治の力がものすごくまだ生きているというのが、ものすごくネックだなというのは身に染みて感じるのも、公民館ワークが効果的になるのかということ、もうひとつ違うワークも、もっと意見を吸い上げないといけない人の層がおられるのではないかなと思います。公民館でまた定期的にやるというのは、ちょっともう前向きな意見は出にくいのではないかなという気はしています。

## ○委員長

もともとは公民館ワークはやるつもりで、他にも保育者と保護者があるのですけれども、昨年も皆さんのご意見を踏まえて、学校に通えてない人向けなども増やしてきたので、ぜひそれはまた具体的にご提案いただければ、ぜひ増やしてやりたいと思っていますし、こ

ここからの予定は、答申を今年度中に出さないといけないし、出すべきだと思っているので、そのための最終確認作業のようなものだと思っているのです。

ただ、勝手に私たちが転入とか、どう考えても少子化のことを考えると転入などのことは書かざるを得ないので、ただ皆さんがどう思っているのか踏まえて書かないといけないということがあるので、それは伺わないといけないと思っているのですが、今おっしゃったことは非常によくわかるので、どういう集まりで、前回議論した、全体でのシンポジウムのようなものがあるのかどうかは別として、違う集まりで考える会をするということは結構大事なような気がするので、ぜひ具体的にどんな人をというご提案があったら、またあとで教えていただければと思います。ぜひそれは増やしたいと思いますし、それは時間を延長するのではなくて年度内に取りまとめる方法でやりたいと思いますが、ぜひまた追加で情報をお願いします。

ありがとうございます。それでは、これは私の宿題にさせていただいて、次回にこんな感じで各公民館などに今の課題を知ってもらおう。それから集落としてどういうふうな選択肢があるのか考えていただくという材料を揃えて、持っていきたいと思います。それには今ご提起いただいた問題は非常に大事だと思っているので、何か別の形で、もっと巻き込むようなものがないかということを考えていきたいと思います。ここまでよろしいでしょうか。

あと、本日ご意見をいただきました「ここで議論すること自体に意味があるのか」ということに関しては、私も肝に銘じて、最後まで責任を全うするつもりです。町が何か別の考えとか動きがあったとしても、私はこの懇話会は最後までやり遂げる覚悟ですし、町長から諮問を受けた以上、町長に返すまでは絶対にやり遂げるという信念を持って関わっておりますので、ご意見は意見として受け止めて頑張っていきたいと思います。

では、次回について、事務局からご説明いただきたいと思います。

### ○子ども支援課長

次回の開催は、こちらの都合と先生方の都合を合わせて10月6日（金）13時30分から、このセンターの2階202会議室で実施をしたいと思っております。

先ほどから公民館ワークショップをどのようにするかということのご意見をいただく場になるかなと思いますし、それまでにたたき台といいますか、まとめた形で提案をさせていただく場になるかと思っています。

公民館のワークショップも昨年は11月から12月いっぱいで開催させていただいたのですが、最終答申の期間を確保する意味で、11月前半からかかれるような形で懇話会の時間を設定させていただきたいと思いますので、皆さん、お忙しい中とは存じますが、どうぞよろしくお願いをいたします。以上です。

### ○委員長

それでは、これで閉会させていただきます。ありがとうございました。

（閉会）